

---

## 平成 30 年度 第 1 回萩市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：平成 30 年 4 月 16 日（月） 14：00～16：00

場 所：萩市役所大会議室



### 1. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今より、第 1 回萩市地域公共交通会議を開始いたします。本日委員 26 名のうち、代理出席を含め 24 名となりましたので会議成立であることを報告いたします。

### 2. 市長挨拶

市長：近年モータリゼーションや少子高齢化に伴う、人口減少が進展することで公共交通利用者が減り、路線の廃止、減便が進んでいます。今後利用者の不足、運転士の不足などが予想され、交通事業者の経営努力だけでは、公共交通を維持・確保することが困難な状況にあります。

また、萩市は広大な中山間地域を抱え、山間部をはじめとする交通空白地では、移動手段の確保が喫緊の課題であり、交通弱者の方から萩の交通手段を見直してほしいとの要望も多々出ております。このような状況から、公共交通網の再編は必要不可欠であると考えており、議会においても公共交通の再編に向けた計画策定の実施について承認をいただいております。本当に待ったなしの状況から、皆様には真摯なご議論をお願いするとともに、市民、交通事業者、行政が適切な役割分担のもと、市民の暮らしに密着した公共交通ネットワークを形成していきたいと思っております。

全体最適な交通政策を目指し、地域特性に合わせた計画策定に皆様のご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。

### 3. 委員及び事務局紹介

事務局：委員、事務局の紹介（省略）

---

---

#### 4. 会長の選任及び副会長の指名

会長選任：設置要綱より、萩市長の指名で萩市商工政策部山本部長を会長に選任。

副会長選任：設置要綱より、会長の指名で榊原委員を副会長に選任。

#### 5. 議事

##### (1) 地域公共交通網形成計画の作成の背景とその目的について(資料1)

事務局：資料1説明(省略)

会長：ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

(質問なし)

##### (2) 地域公共交通会議の設置目的及び地域公共交通網形成計画について(資料2)

事務局：資料2説明(省略)

会長：ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

(質問なし)

##### (3) 萩市地域公共交通網形成計画の策定に向けた調査計画書(案)について(資料3)

事務局：資料3説明(省略)

会長：ただ今計画策定、調査の実施方針についての説明がありましたが、これについてご意見等ございましたらお願いたします。

秋本委員：国土交通省では、冒頭説明がありました網形成計画に基づく計画策定がH30年度末までに中国地方では、43件あり、また複数の市町村がまとまって作成しているケースもあるので、市町村数では63自治体となり、約半数以上の地域で策定されています。この間、公共交通をめぐる環境は、高齢化、少子化が進展する等、状況は変化しています。その中で高齢者の運転事故が増えていることから、国土交通省では、高齢者の移動に関する検討会を開いており、昨年度6月末にその件について中間報告をしております。その中で、交通施策と福祉施策の融合を考えておりますが、その観点も取り入れていただきたいと思っております。

事務局：当初の説明でも申しましたが、萩市の高齢化率は、全国でも上位にあり、議会でも多くの質問が出ております。このような状況を踏まえ、高齢者、高校生を対象としたアンケートを実施します。また、民生委員が地域の実情状況を把握していることから別途アンケート調査を実施します。またオブザーバーとして萩市福祉部にも参加いただいているので、その点を留意して進めていきたいと思っております。

寶迫委員：高齢化という説明がありましたが、バス事業者にとっても運転士の高齢化が進んでおり、若者の運転士離れが進んでおります。若い担い手がなかなか集まらず、厳しい状態が進んでおります。また資料3のニーズ調査におけるバス事業者の意思確認のところで、「デマンド運行への意向」について、ストレートに記載があるが、デマンド運行以外の方法もあるのではないのでしょうか。

事務局：デマンド運行の実施では、ある程度事業者の体制が整っている必要があります。冒頭ご指摘のあった運転者不足がある中で、路線再編を行った上で、撤退路線が発生した場合に、公共交通がなくなった地域に、移動に関する役割を担っていただける人材が地域にいるかどうか課題となります。その際、一足飛びに自治体有償運行などに切り替える方法もありますが、その前に、地元のタクシー事業者や、乗り合い運行の対応が可能な事業者意向を確認した上で、デマンドに限らず、乗り合いの曜日運行などの対応方法も交えながら、段階的に運行水準を落としていく方法をこの計画で取り入れたいと考えています。

---

---

山間地域では、2週間に1回しかバスが来ない地域もあり、そのバスの乗車率は満車になっているような事例もあります。最低限の運行水準をどこに設定するか、事業者の対応可能な範囲も含めて検討したいと思います。

大田委員：むつみ地域を担当していますが、幹線道路の交通網に対しては、私たちの立場からは言えることは少ないです。民生委員等も担当している立場からすると、当該地域では、ぐるっとバスが運行していますが、公会堂を中心に巡回するこのバスがある状況で、このバスの運行からも離れた、1km先のようなところに、80歳以上の方が住んでおられます。このアンケートで65歳以上という括りで調査されるとのことですが、65歳は、まだ運転されています。運転できなくなった人のことが大事になるのではないのでしょうか。足がないから80歳になっても運転されている方もおられます。このような状況で、全く運転ができなくなってしまった人が、買い物や通院で困っている状況です。このような人たちが重要になってくると思いますので、事前にこのような人の意見をうかがって、アンケートを作るようにしていただきたいと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。来月2回目の交通会議を予定しており、その中で、アンケートの設問内容や、利用者ヒアリング調査の内容を委員の皆様にお諮りした上で、調査を実施したいと考えております。

波多野委員：福栄地域においても交通事情は福祉施策そのものになっておりますので、このあたりの地域の実情もご考慮いただければと思います。

事務局：大田委員のご意見ですが、網形成計画は、面で地域を検討することが可能ですので、幹線も扱うことが可能です。公共交通施策では、身近な生活拠点まで交通手段をつなぐことを重視しております。まずは皆様の地域で、用事が済む場所がまとまっているのかどうかを把握します。例えば、買い物と病院が離れたところにあると、公共交通では捉えにくい状況となってしまいます。コンパクトな街の優良事例としては、商業施設や買い物施設、その他郵便局等がまとまってあり、そこにバス停が置いてあるようなところが挙げられますので、まずは地域に赴き、皆様の意見をうかがいながら、特に利用している施設の状況を把握した上で、幹線バスとぐるっとバスをつなぐような検討を進めたいと考えております。

事務局：萩市は高齢者の移動手段の確保が最重要課題であり、高齢者の移動手段の実態を把握することが特に肝心となりますので、実施については市報などでも周知を図りますが、アンケート調査の際は、是非とも周辺の方にもお声かけいただき、また来年度は、各地区で意見交換会も実施いたしますので、ご協力いただければと思います。

会長：今回は調査の進め方の方針についての説明ですが、次回は、先ほどお話しがありましたようにどのような形でアンケートを行うのか、具体的な議論をしていきたいと思います。

川口委員：公共交通は福利厚生、利便性の向上の上でも重要と思いますが、観光についてはインバウンド、国内観光客とも伸びております。旧市街地で140万人、全域で240万人の人が来られておりますが、人口減少の中で、増加しているというのはとても重要であると思います。この中で、萩から益田への路線は土日もあります。北浦の交通バスや電車、津和野までの石州街道など、むつみ地域も通過する路線もあり、これらの観光客のニーズを把握することが重要です。また新山口駅と萩市をつなぐスーパー萩号での観光客への意向についても、観光の要となりますので、この点の状況についてしっかりと調べていただきたいと思います。交通の利便性を高めて、観光客を増やすことにも重要です。まあ一歩バスや、JR等による益田へのルートなど、多方面へのルートがありますので、是非公共交通の中に観光客増加の視点を加えていただきたいと思います。

事務局：公共交通を利用するに当たって、わかりやすさが重要と考えます。公共交通はいろいろな方向にいろいろな乗継ぎが必要となるため、自家用車の方が利便性が高く有利な状況にあります。一方で遠方から来る人ほど、公共交通を利用する人は多いです。萩市の入り口としてスーパー萩号を利用した場合に、どの方向に向かうのか、ある程度観光者の導

---

---

線を見定めた上で利用促進策を検討したいと思います。

稲原委員：第二回の会議の開催日が決まっていたら教えていただきたい。

事務局：来月 5 月 14 日で予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

#### (4) 萩市の概況・地域特性について(資料4)

事務局：資料 3 説明 (省略)

河口委員：資料 4 の P 4 では、公共交通の利用率は 4%となっています。4 万 8 千人の人口の 4%となりますが、市全域での観光客数は 242 万人となっています。大半は自家用車で来ますが、分母は市住民の 50 倍となりますので、観光客の視点・利便性を考慮していただければと思います。

事務局：乗降調査では、乗車した乗客全てを調査対象としますので、その調査の中で、観光客の動向も把握したいと思います。

大田委員：アンケートで 65 歳以上対象となっていますが、実際の 65 歳は、運転免許を所有し、よく運転している人です。本当に運転できない人は 80 歳になると思います。この 65 歳以上の設定の意図はどのようなものでしょうか。

事務局：交通弱者は様々な年代にいる状況で、高齢者のみでよいのか、との議論もあります。ただ、65 歳以上にした方が、より生活にお困りの方を捉えられると思い、この年齢を設定しています。また 5 年後を見据えると、65 歳以上の方も年齢が上がることや、同じ 65 歳でも、男性・女性で異なる状況もあります。地域によっては年齢にかかわらず、運転にお困りの方が多くいる場合もあり、離島などで免許保有率が少ない事例も過去ありました。アンケートの配布については、郵送配布回収だと、回収率は 4~6 割にとどまるので、より地域で困っている方にアンケートを届けるため、配布の際は、民生委員の方々のご協力を得られると幸いです。実際の配布については、次回の会議で議題に挙げさせていただきます。

竇迫委員：この資料は、今後検討する上で大事な資料になると思います。図面と人口、バス停の最新情報について更新をお願いしたいと思います。この資料を更新することで、移動にお困りの方がどのあたりにいるのかが、より明確になってくると思います。

また先ほどから、公共交通・福祉など含め、移動手段の確保が必要であるとの話があり、ありがたいと思っております。このような状況で、今だけでなく、今後、継続して公共交通を維持していくことが大事であることから、今すぐとは言わないまでも、「たまにはバスを乗ろうよ」等、利用促進につながる、あるいはバスの重要性につながるようなテーマのような設問も追加していただき、バスの利用普及につながるようなものにしていただきたいと思います。

事務局：今回の作成図面は、国土数値情報を活用していますが、データ年次が 23 年次なので、今後最新情報をいただきながら図面の更新をさせていただきます。また調査においても、バスの利用促進につながるようなことも踏まえて、検討を進めたいと思います。

会長：その他発言がございましたらお願いいたします。また早速 14 日に会議がありますのでご協力お願いいたします。本日の議事について終了しましたので進行を事務局へお返しいたします。

事務局：来月 14 日に会議を実施しますが、その前に設問内容について、皆様に事前郵送したいと思いますので、次の会議までにご確認され、会議の場でご意見をいただければと思います。

事務局：以上で会議を終了いたします。